

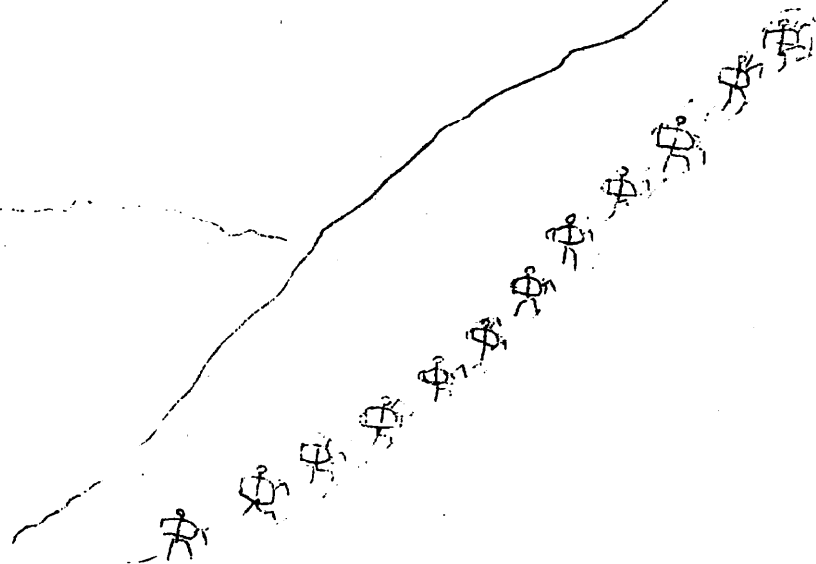
79' 冬山合宿

12/19 ~ 12/26

白馬 ~ 日本海

信州大学山岳会

ALL 信大




MEMBER ( ) は部歴

C.L 田中 (4) S.L 竹内 (4)

加藤 (3)	山本 (3)
川原 (2)	吉岡 (2)
田淵 (1)	田辺 (1)
保科 (1)	若村 (1)
関 (1)	藤井 (1)

[MEMO]

# 12/19 行動記録

松本 5:19  白馬 7:00 773-1 中山沢合.

○ 7:50 中山沢出合発.

○ 8:50 - 9:00 1350m 地点

トレスは無いが、雪はふざ下くらい。

○ 10:00 - 10:20 猿倉台地上部

ここでワカンをはき、先発隊に別れ  
デボをする。

(先発隊の記)

L 竹内、山本、吉岡、奥、藤井、岩村

○ 中山沢トラバース地点 11:10 - 11:20

雪はワカンをつけて、ヒカ位置まで

① 12:15 小日向のコル

① 12:30 猿倉台地のデボ回収に向う  
(1500m 地点)

◎ 1:05 デボ地着

◎ 1:20 = 発 デボ回収.

◎ 2:00 中山沢トラバース (1650m)

◎ 2:30 小日向のコル 1820m ベーストレト

(後発遂の記)

し 田中、加藤、川原、保科、田辺、田美。

① 12:20-13:30 小日向のコル。1820m

テントを張り、10kgほどの荷をテホに向う  
雪は少々クラスト気味であった。

② 15:00-15:10 小日向のコル直上(2000m地点)

テホした後 ベーステントへ下る。雪はワカニを  
つけてヒカくらいであった。15:00 先発遂と交信  
したが、うまく声が通らず失敗に終る。

③ 15:15 小日向のコルとテント

—感想—

— 天気はすばらしく良かった。白馬、杓子と駒め  
が実に美しい。

雪の量はワカンをつけてヒカくらいまで  
だった。思ったより量は少ないようである

(保科)

## 12月20日 先発隊の記録

L、田中 加藤 山本 川原 保科 関

8:00 ① 小日向のコル出発。人ダン箱1ヶと登山はん具を持つ。

9:15 ① カンパ平のちあとで前まで1本。

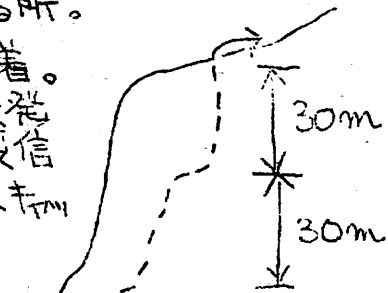
10:10 ② 強風のためピッケルをついて風のおさまるところ待つ  
ことがしばしばあった。(ランエルのつもいでザック  
を置くが、上部にもっと良いテニ場があるとのことで  
また登る。

10:30 ② カンパ平のテニバ着。前の所よりやや風が弱い。  
スペースは充分。池のある所。

11:55 ① フックス地点の手前に到着。  
12:00にトランシーブで後発  
隊との交信を試みたが、受信  
だけ可能で、こちらの声はきか  
ずされなかった。フックス  
工作、及び道標に1時は

近くを要した。フックス  
ロープ2本使用。残置の  
ロープは稜線上に

またが急雪面を右上がる。  
雪が硬いゆりに雪が厚くはなれないが、不安定で、  
足音が悪い。通過してからは、シヤンクは



2600m 地元のfix

14:00 ① シヤンクに着。お笑いの。雪どめした。ところこ  
こ雪が薄い所もあつた。下をみる。一年生のみ  
カセンで下ることになった。カセンは落した時  
に関君のカセンを落として大笑い。

15:00 ① テニバ着。最後はリセードでしめくり。

感想

今日は天気が良くなって景色がすばらしかった。朝は  
雨が降っていたのに。今日も予定の行動ができて  
良かった。はたして日本海を見るのはいつでしょう。  
カセンを落としたのは反省点 (By 関)

## 12月20日 後発隊の記録

L、竹の内 吉岡 藤井 岩村 田丸 田淵

8:30 〇 小田向の山出発。17.17.4でゴンで行断する。

9:30 ① 昨日上げたテポの50mほど下の地点で1本。今日の風の強でテポが心配だったが大いじょうぶだった。しばらくして風が強くなり、本行に準備を要した。

10:40 ② 風が強くなってきたのでヤケを着用する。カンバ平の少し手前。

11:10 ③ カンバ平着。先発隊の指示により、最低軌部より50mほど登った平地まで行く。テントの設置終了後テポ回収へ向う。

13:25 ④ テポ回収

14:00 ⑤ T.S.到着。シンクッションには先発隊らしき人影が見えた。

### 感想

今日は朝のうち雨が降っていたので沈殿するのかなと思つた。それとなくとも、どうも朝なのに……でもやっぱり今朝は神通り行動できてよかった。そのうちまたまた沈殿することになるでしょう。今日の後発隊は、みな荷物が多い重いと言っていた。40kgはあるが、重たすぎたがなぜかホリの荷物だけは軽たたようです。でして、今日のほうちもいい感じだといひます。

11月21日(金)

天気 快晴のち雪

先登隊 リーダー竹の内、メンバー山本、川原、藤井、岩村、田辺、

行動記録 6:30 出発。急な雪の斜面を直登する。雪のエッジをすこしく

と、昨日のフックスがあた。登りきってジャンクシェン

7:40 ピークをこえたあたりで1本。

ここより雪稜を行くが、ほとんど雪をはでしてない。雪の深さはワカンをつけてふくらはぎまで沈む程度だった。

8:40 山頂より120mほど下で1本。

ここから見ると杓子岳のピークをまいて主稜線たどられ  
えうに見えるが、実際には行けない。どこかのパーティが  
残した赤旗に導かれて稜線をたどる。急な雪壁をぐいぐい

9:50 登ると山頂直下の岩場にひる。ここに残置ハーケンの上に  
さらに1本打って フックスを固定した。

12:00 杓子岳山頂。ここからの下りは雪か嵐にみがかねていて  
アイゼンがよくまく。足首が痛かったが主稜線は軽快に  
歩行できる。

1:00 白馬村営宿舎でデポする。

3:00 杓子岳山頂のデポを回収してまたもどいた。テントを張る。

後登隊 リーダー田中、メンバー加藤、吉岡、田淵、保科、関、

行動記録 7:20 出発

12:00 杓子岳山頂。ここにデポして昨日のデポを回収に行く。

1:00 デポ地着。

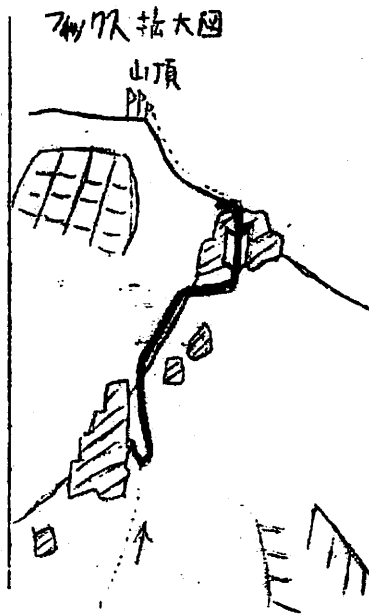
2:00 ふたたび杓子岳山頂。残っていた個装をパッキングをかねて出発。

3:20 テント着。

2日の行動の図解



感想、今日は入山以来、最もよかった。  
 しかし天気がよく楽しかった。  
 空の紺と稜線の白が感動的であった。  
 後発隊はデボ回収からもどって来た時、杓子山頂に梱装が残っているのを見てメゲたようだ。みんないんどか、たからしょうがないけど。  
 とにかく、3日で主稜線まで来たことは喜ぶべきことだ。



11月22日(土)

天気 吹雪

行動記録、しばらく吹雪の様子を見てから、11時で行くことになった。

8:30 村管宿舎を出る。視界10mでルートをまちがえてばかり

い未。新雪で30m位 足がうすまる。

9:20 頂上小屋の下でテントを張る。

ニニよりデボ隊が出る。

III リーダーの内、トパー 山本、加藤、川原、田沢、岩村、

10:40 出発。

11:10 白馬岳山頂。風がものすごく強く、吹、飛ばせれうに在、

~~##~~ た。顔も痛くて痛くて。 雪はしま、ていた。

11:30 山頂より100mほど下、た地点にデボ。

12:10 帰天。

感想、デボ隊の人ごころうさま。11よ11よ冬山が本性をたして来た。



12月23日 先発隊 L. 竹内 山本 川原  
岩村 田辺 田淵

後発隊 L. 田中 加藤 吉岡  
何科 関 藤井

8:00 ⊗ 先発隊 白馬山 下へ出発。

8:25 ⊗ 昨日の台地上 干本 地点着。

8:30 ⊗ 後発隊 下へ出発。

9:00 ⊗ 両隊 干本 地点で合流し、出発。

9:40 ⊗ 白馬から下る時、西側の支尾根に入りかけた  
が、引き返し、夏道沿りに三圍境まで下る。  
早瀬田のパーティと会う。

10:40 ⊗ 鉢ヶ岳 中腹。

11:20 ⊗ 雪倉野 雑小屋。  
鉢ヶ岳 周辺は 雪が飛んでいて、歩きづかい。  
頂上から左の強風を受けて下ったコルに  
小屋がある。

### 感想

昨日から冬型の気圧配置になっている  
ので 風が強い。  
下りとも ゆるく 楽であった。  
今日は小屋と泊れるので ゆっくりと休める。

12月24日 土田中。1 party で行動。

7:30 ○ 小屋を出発。  
天気は良く、風も弱い。

8:00 ○ 雪倉頂上。  
展望が良いので記念写真。雪倉の登りは  
アイゼンのみであった。

9:00 ◎ 雪倉と赤男山のコル。  
雪倉の下りは夏道コースで斜面をトウパス。  
視界が出てきたので支稜の下りが分かった。

10:50 ① 赤男山と朝日岳のコル  
赤男山の登りの時から7カンを着用。  
オオシロビヤの中を歩いた。

12:30 ① 朝日岳頂上。  
いくさ登っても着かない。  
頂上はない。

1:50 ① 長梅山を越した所。  
朝日岳直下からアイゼンにしたが、  
登りに入り、すじに7カンもせず。

3:00 ① 黒岩平  
非常に複雑な地形である。ガスが出ると  
どうしようもない。  
平地は平坦。

### 感想

今日の行動で年内下山はほぼ確実に  
行った。  
黒岩平 辺はルートフィニングの力が無け  
れば進め難いところである。

12月25日

1パーティ-2行動

7:20 ◎ テントサイト発  
(黒岩平)

8:20 ◎ 一本(1606m峰手前にて)  
雪はいざ下ぐらい。黒岩山直下まで前日の旗どおりに  
進み、黒岩山の登りはトレース上を行く。シカレヤがトレ  
ースもなくなり、再びラッセル。日本海が見えた。

9:40 ◎ 一本(サワガニ山北方直下)  
平坦な稜線で、幅も広い。いいペースで進んだ。

11:20 ⊗ 梅海山荘着  
サワガニ岳の下りはやせているので要注意。しかし雪ピ  
はない。犬ヶ岳の登りはブッシュがややうるさい。  
犬ヶ岳よりサレ北に下った所に小屋がある。もう  
少し行くか、ここに泊まるか、話し合った結果、ここに  
泊ることに決定。

感想; 日本海がだんだん近づいて来るのがとてもうれしい。今日  
は かんばし 雨 もっと先まで行けたであろうが、午後から  
天気がくすむのはわかっていて、テン場もこの先不明  
であり、前日のロングランでぼてっていたので、小屋で休んで  
正解だと思う。今日の折は日本で一番雪ピが大きく  
発達する折だそうだが全然できてなくてホッとしたり、  
小屋から見える日本海の白波が実にきれい。今日も  
体調が良くない。早く下山したい。(保科)

12月26日

1パーティーで行動

- 7:35 ① 柵海山荘 発  
今日も天气が良い。
- 8:30 ① 一本 (1350m地奥に之)  
ワッパアイゼンで歩行、雪は湿っている
- 9:35 ① 菊石山南部に之一本
- 11:20 ① 一本 (1241m山峰に之)  
アイゼンをはすし、ワカンのみで歩行、湿雪のためしんどい。
- 1:30 ① 白鳥山頂に之一本  
雪がますます重くしんどい。
- 3:50 ① 330mのコルに之一本  
ラッセルの足が重い、ワカンはダンゴがついてくる。
- 4:30 ① 坂田峠でワカンをはすす
- 6:10 ① 二本松峠に之一本 ハッドランプの用意  
出発して10分程で沢に入る。道が荒れている。なかなか進まない。地図どおりの道でなく、右岸にまでダムまで降りた。
- 8:30 ① 親不知 天望台着
- 9:30 ① 親不知 駅着

感想: 遂に冬山合宿も終わりました。それにしても今日一日の行動のきつさは、これまで経験に類をみないものでした。8日間1日の沈殿もなかったということはいいことではありましたが、雪山の荒天がたいして体験できなかったのは少々残念だ。でも、みんながんばった。事故もなかった。ごくろうこまでした(岩村)

○各係、個人からの反響

● 装備係

- ・フスの手入れやおつかいとも慎重にやっていた。
- ・トイレットペーパー、電池にもたかあった。
- ・個人装備に関して1年生にはむたか多い。

● ESSEN係

- ・今回のESSENは内容作り方ともに良い方であった。
- ・朝のESSEN作りが非常におもしろかった。
- ・今回は1日1人300円、450円位であった。

● 医療気象係

- ・天気図を見たかきりてけを明けど良くなかったが夜雪が降っても朝は晴れるというパターンで、気温は高かった。
- ・寒気が来る前に下山したことが勝負でしょう。
- ・医療の方ではたいしたけも無く、勝負がたので凍傷になる危険もなく幸いたった。アイゼンのひかけのけかには次から注意しよう。

● 記録係

- ・記録をとる時には、コースタイム、休憩の地点だけでなく、コースの内容(積雪、天候、fix、etc)をしっかりと書き留め、そのコースタイムにも意味がなくなってしまうのでその点に注意して、後から読んだときわかりやすい記録を書くようにしよう。

● 会計係

● ESSEN 97,499  
装 備 31,900  
交 通 費 26,040

155,439 × 12 (人数) = 13,000円

● 個人からの反省 感想

- 雪上の歩行技術がかなりうまくできるようになった。オスリ  
コウのバッキンクが身体内にあまりうまくいかなかった。今日の  
合宿で冬山が好きになった。(1年 田辺)
- 反省すべき点は生活技術だと思う。今回は天候に恵まれたが  
雪山があの様なものと思えた。冬山は怖い。(1年 関)
- もう少し早くこの歩行にも慣れたかった。生活技術がまだま  
だ未熟だと思う。又好き良かったのでこれから冬山に少し不安が  
残った。(1年 田沢)
- 期間が短かったため体力的に余裕が持てた。技術面もワ  
カン以外一応できたと思う。生活技術の未熟を反省したい。(1年 藤井)
- 体調をくずしてしまつたのが残念だった。天候に恵まれたため、次  
の冬山の自信があまりつかなかった。冬山はキライ。(1年 保科)
- 生活技術の未熟さを知り知らされた。3000mの冬山はさすが  
に美しく雄大だった。(1年 岩村)
- 大人の使い方について自分が未熟であったと思う。テント内での  
生活技術を一年に指導できた。2年連続の暖冬の冬山合宿で  
おたが自分をもっと戒めていきたい。(2年 田岡)
- 体調が悪く2年生として先頭になってバリバリ働けなかったのが死  
念であった。天候は良かったが心りやりかけおりましたという感じが残  
った。8日目の行動にはムリがあったと思う。(2年 川原)
- 今日合宿は天候もよく雪も<sup>少</sup>なくスムーズに行われ、充<sup>分</sup>に  
おたが事を知り、1年生にとっては充分なものであったと思う。  
この合宿で修得できた事を雪山でおたがなるべく積張  
ってほしい。(3年 山本)